

おかげさまで30周年 皆様のご支援に感謝

秋田職能短大は、国が設置する厚生労働省所管の大学校として1993年に開学し、今年で30周年を迎えることができました。これも関係者の皆様の並々ならぬご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

開学に当たっては、大館市、大館商工会議所等の行政、産業界、地域の皆さんの熱心な誘致活動があったことは様々な方からお聞きしています。

当時、世の中は、「ジャパンアズナンバーワン」、「電子立国ニッポン」等に象徴された経済成長が、バブルの崩壊によって低迷へと転じ、企業経営等に様々な影響が出始めている時期だったと思われま

す。特に新規学卒者の採用を手控えた就職氷河期と重なった大学校運営は、大変厳しいものであったと想像できます。しかし、当大学校がものづくりにおける確かな頭と腕、つまり技術と技能を兼ね備えた「実践技術者」の育成を目的としていたことから、地域の企業さん始め多くの企業さんにご価値を高く評価していただき、卒業生を多数

採用していただいたことで就職氷河期を乗り切ることができました。

歴代の学校長はじめ職員は、地域の皆様に望まれての開学であることを強く意識し、各高校から薦めていただいた学生の職業教育に熱心に取り組んだことは勿論のこと、地域の教育、産業等との直接的な関わりによる人材育成にも尽力してきたものと思われま

す。具体的には、2007年から主体的な運営者として実施している大館圏域の中小高大による産業教育の成果等の発表の場である「大館圏域産業祭・産業教育展」(2011年)に大館市教育委員会と協働で

キャリア教育を義務教育から高等教育まで段階的体系的に構築した「大館ふるさとキャリア教育」(2013年から産業界、教育界等と合同で、中学生へのロボットプログラミングの習得を目的とした教室等を開催する「おおだてロボット人材育成コンソーシアム」などの活動を創造してきたこと)です。そしてそれが現在まで連続と実施できていることは、地域における職業教育、産業教育の基盤を微力ながらも支えてきた一つの証しなのかもしれません。

これらの取り組みは明らかに効果が認められてきています。例えば、当校の学生の進路ですが、県内出身者(約9割強)の県内就職率は約6割と高いことや、大学3、4年に相当する応用課程(東北能開大等)への進学者の志

望理由も「地元での発展のために更に深く学びたい」というような、卒業後、またはその先に地元へ戻るとする学生が多数派であることが成果の一つであると思われま

す。そして多くの学生が就業を希望するこの北秋田地域のものづくり産業の今ですが、都

市鉱山、木材活用による森林活性化、洋上風力発電建設と水素・アンモニア生成、そして鉄道輸送によるインフラ

デポ構想などが話題になっており、この地域は、これから循環型ものづくりをリードする地域へ進化してきています。当大学校としては、この進化を確実なものにするために、引き続き技術の進展に対応した教育訓練の実施により、優秀な「実践技術者」の育成及び地域のものづくり産業従事者の方々に対するリス

キングを使命として運営してまいります。

今回のコラムは、30周年を記念して各年代を代表した卒業生からのお祝いのメッセージを掲載いたします。様々な思いを当大学校の歴史の一部として記せることに感謝します。

秋田職業能力開発短期大学校

校長 後藤 康孝



最後に、北鹿新聞社様には、このコラムを含め年間に30回以上の当大学校関連記事の掲載を30年間継続していただいていることについて深く感謝申し上げます。